

問 命の水、整備促進を

答 全町簡水化へ向け

大崎(公) 町民が生活する上で必要な不可欠なものは水である。平成27年度整備予定の大野簡水における西黒川や飲供施設整備における下桑ヶ市区以降のいわゆる未整備地区への取り組みや課題を問う。また、高齢化が進む中、現在の地域管理の飲供施設の簡水化への取り組みはどうか。

問 木質バイオマスエネルギー取組は
答 経済性を判断した
のちに

ては水源の確保であり、地域の理解を得、あくまでも自然流下方式による整備を行つていきたい。現在何地区か要望が出されており、今後20億を下らない事業費が想定される。可能な限り事業費を抑制しながら全町簡易水道化へ取り組んでいきたい。また、既存の飲供施設の簡水化への取り組みについては、メータ一整備等を進めることにより将来の簡水への統合も視野に入れいく。

大崎(公)

問 子供のSOSを見逃すな
答 アンテナを高く上げ情報収集

池田町長 朝見谷土場の残余の土地への木質バイオマスエネルギー施設の検討状況はどうか。費用対効果の見極めは重要だが地域循環型システムの構築を考えるとき、一定の効果は期待できるかどうか。

池田町長 町内4施設について需要供給バランスは良いとの報告を受けている。今後は設備投資、経済性を重視し判断しなければならないと考

神奈川県川崎市の多摩川河川敷においては大変ショッキングな事件が発生した。教育の一義的な責任は家庭にあるとしても、すべての家庭が子供の変化や動向に敏感に反応するわけではなく一部とはいえ、地域や学校のフォローが必要な子供もいる。今回の事件を受けた所見を問う。また、人の痛みや人命尊重など道徳教育の必要性を再認識させられるが本町における取り組みや効果を問う。

大崎(公)

問 厳しい状況が続いている
答 茶葉の現況は

川上教育長 生産環境は資材の高騰や単価安が続き非常に厳しい状況が続いている。町内両地区で生産者は125名おり、平均年齢は津野山69才、葉山地区73才である。また、生産面積は合わせて35.5haであり、総生産量については合計生葉概算で137tである。合併した平成17年から生産額で千200万円(△58%)という数字である。そうした状況下、昨年両組合と協議を重ね、茶工場を統合し、JA津野の茶工場を改修し品質向上や販売額の強化につなげ、後継者の育成や生産意欲の上に繋げていきたいと考えている。

でいたら理性を働かせ命を救えたのではないかと考えている。